令和元年度第１回　大和市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議　会議録

１　日　時　　令和元年１０月３１日（木）　１０時００分～１２時０５分
２　場　所　　市役所本庁舎５階　委員会室
３　出席者　　委員６名
　　（磯崎委員、上田委員、宮東委員、小別所委員、鈴木委員、渡辺委員）
４　傍聴人　　希望なし
５　次　第
　１　開会
　２　市長挨拶
　３　委員自己紹介
　４　座長・副座長選出
　５　議題
　　（１）「健康都市やまと」まち・ひと・しごと創生総合戦略について
　　（２）大和市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議について
　　（３）次期「健康都市やまと」まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定に向けて
　６　その他
　　（１）次回開催日程　ほか

６　会議資料
　委員名簿
　資料　１　：「健康都市やまと」まち・ひと・しごと創生総合戦略について
　資料２－１：大和市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議について
　資料２－２：大和市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議設置要綱
　資料３－１：次期「健康都市やまと」まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定に向けて
　資料３－２：大和市の人口に関する動向等

【議　事】

座長　　：次第５ 議題の（１）「健康都市やまと」まち・ひと・しごと創生総合戦略について及び（２）大和市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議について、事務局に説明を求める。
事務局　　：**【資料１、２－１、２－２について説明】**
座長　　：事務局の説明に質問等はあるか。
委員　　：国は、人口減少に歯止めをかけるため、地方創生を進めてきているということであるが、これが地方で具体的に進められていく際には、出生数の増加を促すだけでなく、他地域から人を呼び込む取り組みもあると思う。大和市では、どちらを軸に取り組みを進めているのか。
事務局　　：資料３－１に、現行の大和市版総合戦略の計画体系とそのコンセプトを記載しているのでご覧いただきたい。委員のおっしゃるとおり、地方自治体レベルでみると、とかく、人口の増減に直結する社会増を促すことに目が

向けられがちであるが、それでは人口減少の根本的な解消にならない。このため、本市としては、資料に記載している通り、自然増を促すことを基本としつつ、社会増の取り組みも両輪で進めていくことをコンセプトとしている。

座長　：続いて、次第５ 議題の（３）「次期「健康都市やまと」まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定に向けて」に関し、事務局に説明を求める。

事務局　：**【資料３－１、３－２について説明】**

座長　：資料３－１に記載されている意見交換のポイントを踏まえながら、各分野で感じていることなど、ご意見等をいただければと思う。

副座長　：大和商工会議所では、企業の誘致に取り組んでいるものの、なかなかうまくいっていない状況である。事業承継については、全国的な課題となっているが、大和市内においては、今のところ、おおむね承継ができている状況である。市内の事業所数をみると減少傾向であり、中でも、昨年、米海軍の空母艦載機が移駐したことを受け、防音工事を行う事業者が減ってきている。また、工業に限定してみると、製造業が減少し、売り上げはかつての２分の１にまで低下してきている。市内で働く場所は減っているのに、人口が減らないというのは、少し不思議に感じている。

委員　：大和市は同じ市のなかでも、地域によって、住んでいる方の年齢層など、特徴が異なっている。この特徴を捉え、それぞれの地域に即した施策を展開していくことも必要かと思う。

産業の観点では、確かに、市内に製造業が少ないと感じる。大和駅近くに大和支店を構えてはいるものの、座間や綾瀬の企業とのお付き合いが多いように思う。市内では、事業承継がうまくいかず、地主が不動産賃貸に移行するケースも見受けられる。そうなると、そのこどもは都心で働くようになり、若い人が大和市に残らないという構図が出来上がってしまう。事業承継も重要であるが、若い人たちがまちに残りたいと思えるような取り組み、大和市から出ていく人を抑制する取り組みが、大変重要だと思う。銀行としても、どのようにすれば若い世代のお客様にご利用いただけるのか、検討している。

座長　：４０年以上大和市内に住んでいるが、地域差があることは、それなりに肌身で感じる。

委員　：企業側は、人の確保、事業承継、技術承継などの面で、若い人たちを雇いたいと考えているが、募集しても、なかなか雇用にまで至らない状況と聞いている。このため、近年は、高齢の方が継続して働き続けるという状況も多く出てきているようである。

座長　：昔と今の高校生を比べると、昔の方が、勉強にしても遊びにしても真剣さがあったように感じる。また、我慢強さも低下してきているように思え、社会人として自立できるのか、心配になることがある。こうした変化から、若い人が就職できなくなっているという状況もあるのか。

委員　：企業側は、今はとにかく、人を確保したいと考えており、そうした変化によって若い人を敬遠しているようなことはないと認識している。

副座長　　：まちの活気を高めるには、やはり、市内に仕事を増やしていくことが必要だと思う。このため、市内に新たな工業団地を作りたいと考えているが、広い土地がない。もしそれなりの広さの土地が出てもマンションが先に建ってしまう。

委員　　：市内の製造業者から、工場の増設、新設の相談を受けることがあるが、市内に土地が見つからないため、座間市、綾瀬市、相模原市などを紹介するケースが多い。２０２０年に東名綾瀬スマートインターチェンジが開通すれば、大和市内に工業団地を設置することのメリットも見いだせると思う。規模の大きい工業団地があれば、まちが少し変わるのではないか。

委員　　：仕事の創出は、地域経済はもとより、人口を増やすという観点からも影響は大きいと思う。一方で、人口減少の抜本的な対策には、自然増を促すことが最も重要である。神奈川県内の市町村の自然増減のデータを見てみると、直近の３か月で、自然増となっているのは、川崎市と大和市だけである。自然増について、大和市のどのような取り組みが作用しているのかを分析し、そこを伸ばしていくと良いのではないか。

事務局　　：大和市の人口が微増していることについては、本市の都心からのアクセスの良さが大きな要因であると捉えている。転入出の内訳をみてみると、２０歳代は転入が多い一方、３０歳代は転出が多いという傾向がみられる。明確な根拠を示せるわけではないが、マイホームを求めて、市外へ出てしまうのではないかと考えている。若い世代にいつまでも大和市に住んでいていただくことが重要だと思うが、一つ二つではなく、様々な取り組みを積み重ね、まちの魅力を高めていくことが重要であると認識している。こうしたことも踏まえ、現行の大和市版総合戦略は、浅く広く様々な取り組みを掲載している。

座長　　：小学校の校長をしていた時、保護者から強いニーズがあったのは、学童の実施だった。民間の学童保育事業者への委託を行い、体制を整えたところ、すぐに５０名ほどの児童の申し込みがあった。４月１日から入学式までの間、こどもをどこに預ければいいかという相談があった際、小学校の学童の利用を可能としたところ、後日、大変感謝された。働く保護者は、こどもを安全に預かってくれる場所を求めているのだと感じた。また、こどものお弁当の宅配サービスにも、かなりニーズがあることが分かった。毎日２０名ほどが宅配を使っており、月曜と金曜は依頼が増える傾向にあった。子育て世代が、ストレスなく、安心して、楽しく子育てに臨める環境を整えることが、自然増を促すことにつながっていくのかもしれない。皆さんご存じのとおり、この度、短期大学を閉校することとなった。地域からは、非常に残念だという電話を度々いただいている。規模は大きくないが、学術機関という地域資源として、温かく受け入れていただいていたことを改めて認識した。また、近年、発達障がいがある子どもも増えていると感じる。大和市では、そのような状況を捉え、平成３０年に短期大学の近くに、特別支援教育センターを開設した。こうした状況を踏まえると、短期大学を単に閉校するのではなく、保育士や特別支援教育士、保健師な

ど、地域に必要な人材の養成を支援できるような場所として残し、地域に貢献できたらと感じる。川崎市では、こどもの権利の保護を、行政施策の真ん中に据えて取り組んでおり、施設整備など相当な公費を投入している。子育てにしっかりと投資すること、そして、その情報をしっかりと発信していくことが大切であると思う。

話は変わるが、入管法の改正の影響もあり、今後、外国籍市民も多くなってくると思う。外国人市民が暮らしやすくなるよう、日本の習慣、日本語の教育の場など、政令市で義務化されているような取り組みを、大和市が率先して実施していってもいいのではないか。外国籍の方々は、個々にコミュニティがあり、大和市が住みやすいという情報が伝われば、すぐに集まってくると思う。そのようなやり方で人口を増やすことが良いのか悪いのかはわからないが、外国籍市民へのアプローチも少なからず必要であると感じる。

委員　：大和市には、程よくなんでも揃っている。また、自分たちで何か作り上げようという土壌があり、市民力は高いのではないかと感じている。

市は、これまでシリウスのＰＲに力を入れてきたと思うが、今後は「子育てがしやすいまち」ということをもっと上手に発信していくべきである。そのような中、聖セシリア女子短期大学が閉校してしまうというのは大変残念だが、経営面での事情があるとのことで、しょうがないと思う。

大和市内の公立学校は、県内でも学力が低いと言われている。こうしたことばかりが世間に広まってしまうと、都内の私立学校へ通うこどもが増えてしまい、ゆくゆくは、大和市を離れる可能性が高まるのではないか。

大和市は、利便性がよく、都心の学校でも比較的簡単に通えてしまうということが、逆にデメリットとなっている。学校教育の充実も重要だと感じる。

副座長　：個人的には、大和市の人口は今後も増えると感じている。まず、交通の利便性が非常に高い。市内に８つの駅があるという自治体はそうそうない。また、穏やかな気候で、霧も出ない。地盤が固いうえに、海はなく、川も少ないため、災害にも強い。場所によっては、富士山も見える。最近では、米海軍も移駐し、航空機騒音も大幅に減少した。さらに、資料に整理されているように、行政が様々な施策を展開しており、とても住みやすいまちであるので、今後も人口は増えていくと感じる。市内に観光資源はないが、交通利便性が良いので、観光には事欠かないと思う。都心に近い、山にも、海にも近いことが、十分なアドバンテージである。あとは、稼げる企業が市内にあれば、なお良いと思う。

委員　：大和市は、「観光に行きやすいまち」とＰＲするのも面白いかもしれない。

座長　：大和市を拠点として、他市へ観光に行くことを考えると、市内にホテルも必要になってくると思う。

副座長　：私は、大和駅近くに祝宴会場を有するようなホテルがあると良いと感じている。大和駅周辺は古い建物ばかりになってきており、これから建て替えが始まるところなので、ホテルを誘致するのであれば今がチャンスであ

る。

委員　：仕事上、様々な資料を目にする中で、どうやら大和駅前では、ビジネスホテルのニーズはあるようだが、シティホテルのニーズについてはあまりないというのが実情のようだ。

座長　：数年前、全国的な研修会の事務局を担った際に一番苦労したのは、参加者の宿泊場所であった。

副座長　：海老名市や厚木市に元々あったホテルは、別の企業に買収されてしまった。これは、駅から遠いことがネックだったのだと思う。大和駅前であれば、そのようなことはなく、きっと駅周辺の発展にもつながると思う。

委員　：確かに、大和駅周辺に祝宴会場がないというのは残念だと思う。

事務局　：大和駅周辺のポテンシャルについてお話が出ているが、相鉄線の延伸という変化は、大和市にどのようなインパクトをもたらすと感じるか。

委員　：相鉄の広告を見ると、二俣川から都心にアクセスできるということをＰＲしている。このため、あくまで個人的な推測であるが、今回の相鉄線の延伸が大和市に大きな影響を及ぼすことは、あまりないのではないかと感じる。ただ、今後、大和駅周辺を整備していくのであれば、鉄道事業者の協力は不可欠であると思う。

副座長　：鉄道事業者が興味を持てるようなまちになって、こちらから売り込んでいくくらいのことをしなくてはならないのではないか。

委員　：鉄道事業者の興味を引き出すには、市内への事業所数の拡大が急務なのかもしれない。

委員　：鉄道事業者によって考え方は異なると思うが、事業所数が増えることを喜ぶ鉄道事業者もいると思う。一方で、大和市に、ベッドタウンであってほしいと考える事業者もいると思う。

委員　：大和市に住んでいて良かったと思う市民がどの程度いるのかなど、把握しているか。

事務局　：市の最上位計画である総合計画では、定期的に市民５，０００人を対象とした意識調査を行っており、この中で、定住の意向についても把握している。ちょうど今年度は調査を実施したところであり、現在、データをとりまとめている。今後、この会議で情報提供することもできると思う。

委員　：引っ越してきた人たちが、地域にうまく溶け込んでいるのかどうかはわかるか。

事務局　：その点については、自治会の加入率が低下しているという数値に現れていると思うが、このことは大和市だけの話ではなく、全国の自治体が抱えている課題であると認識している。引っ越してきた人が、地域への参画を望んでいない場合も多く、行政からアプローチをするのが非常に難しい分野である。なお、先ほど説明した市民意識調査とは別に、次期総合戦略の策定にも関連の深いものとして、転入、転出者を対象としたアンケート調査を実施しているので、その結果についても、今後、皆さんに情報提供したいと思う。

委員　　：就職面接を受けに来た学生ですら、大和市の場所を尋ねても、分からないという人が多い。大和市をもっと知ってもらうことが必要だと思う。大和市に住んでいてとても良いと感じたのは、昔から住んでいる人と、新しい人がごちゃ混ぜになれるまちであるというところ。地方の土地では、５０年住んでも新参者と扱われてしまうと聞いたことがある。
商工会議所の跡地とやまと公園について、何か新しい動きはあるのか。

事務局　　：現在、商工会議所の跡地を含め、やまと公園をリニューアルするという計画はある。

委員　　：やまと公園は緑豊かではあるが、市民の利用は多くないように感じる。駅から近いので、リニューアルにあわせて、もっと人が集えるような工夫ができるといいと思う。

委員　　：「健康都市」と聞くと、一般的には、高齢の方に向けた施策のように感じてしまう。もちろん、計画の中を見れば、そうではないことがわかるが、他の委員が言うように、「大和市は子育てがしやすいまち」というイメージをもっと強く発信していくのであれば、「健康都市」というタイトルを変える、もしくは、計画体系の見せ方などを工夫していくと良いのではないかと感じた。

座長　　：意見も出尽くしたようなので、本日の会議は終了とさせていただく。

以　上